

東京ガス株式会社 | 案件概要

対象事例：東京ガス株式会社 トランジション・ボンド

■ 企業概要

業種	ガス・電気
所在地	日本
事業	国内最大規模のガス会社。「ガス事業」、「電力事業」、「海外事業」、「エネルギー関連事業」、「不動産事業」等を展開。

基本指針四要素への対応

要素1	<ul style="list-style-type: none"> トランジション戦略：2050年CO₂ネットゼロの実現に向けた移行ロードマップ「Compass Action」を策定。天然ガスによる低炭素化を進めつつ、2030年以降に水素やカーボンニュートラルメタンを順次導入することで、化石燃料にロックインしない、ガス・電力の脱炭素化を実現する計画。 ガバナンス：トランジション戦略を経営レベルで推進するための体制を構築。
要素2	<ul style="list-style-type: none"> TCFD、GRIスタンダード、ISO26001等のガイドラインを活用し、自社の環境上のマテリアリティを特定。この中に気候変動への対応が含まれる。 経営上の最重要課題として「天然ガスを扱うリーディングカンパニーとしてCO₂ネット・ゼロをリード」することを位置付けた。
要素3	<ul style="list-style-type: none"> 2050年CO₂ネットゼロに向けたScope 1,2及び3の中期目標を設定。 その実現に向けた低・脱炭素化の取組は、経済産業省によるガス分野のロードマップとも整合。
要素4	<ul style="list-style-type: none"> 2030年までに脱炭素含む成長領域に約2兆円規模を投資予定。2020-2022年度の中期経営計画でも、脱炭素等の成長領域を含めて1兆円の投資を予定。 プロジェクトによる環境改善効果のレポートを年次で実施予定（ボンド償還まで）。

■ ボンド概要

発行体	東京ガス株式会社
ストラクチャリングエージェント	NA
評価機関	DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社
調達予定額	200億円
調達予定日	2022年12月

資金使途候補

※太字：本件の資金使途候補

資金使途カテゴリ	主なプロジェクト
天然ガスの高度利用	<ul style="list-style-type: none"> ガスへの燃料転換 -LNG基地新設、パイプライン延伸等 高効率機器の導入 -産業・業務・家庭用
天然ガスによる低炭素化	<ul style="list-style-type: none"> エネファーム、燃料電池 ガスコジェネレーション、VPP 高効率LNG火力新設・維持等
エネルギーの面的利用	<ul style="list-style-type: none"> スマートエネルギーネットワーク等
CCUS技術の活用	<ul style="list-style-type: none"> お客さま先でのCCUシステム、CCS
ガス・電力の脱炭素化	<ul style="list-style-type: none"> 水素利用 -水素ステーション新設 -水素パイプライン敷設等 ガス体エネルギーの脱炭素化技術開発 -水電解によるグリーン水素製造 -革新的メタネーション等
再エネ電源拡大	<ul style="list-style-type: none"> 再エネ電源拡大 自社火力のゼロエミ化(H₂、NH₃導入)

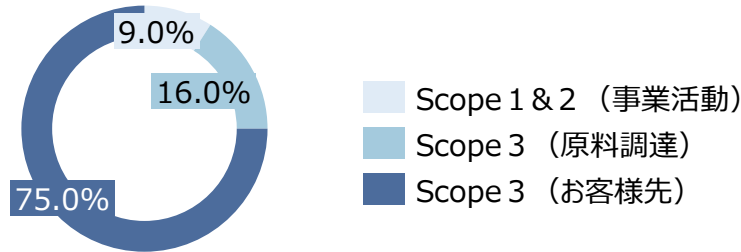
東京ガス株式会社 | 案件概要

トランジション戦略とガバナンス（要素1）

カーボンニュートラル関連目標

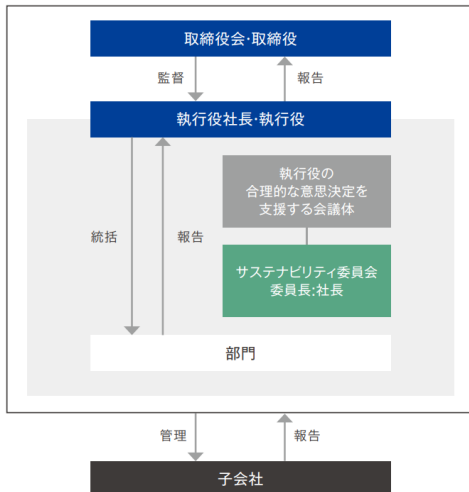
2030年

- Scope 1 & 2 のうち都市ガス製造段階、自社利用ビル、社用車に関して：ネットゼロ
- CO₂削減貢献量（2013年比）：▲約1,700万t（※）
※Scope3排出相当量の減少分▲75万tを含む



GHG排出量内訳(2021年度)

ガバナンス



- 子会社も含めたグループ全体としてサステナビリティ推進体制を構築
- 社長を委員長とするサステナビリティ委員会を設置し、マテリアリティへの取組を推進

トランジションに向けた戦略

2030

2040

2050

トランジションの加速

カーボンニュートラルへ

- お客様先のCO₂排出削減貢献：天然ガスによる低炭素化
天然ガスへの燃料転換・ガス機器高効率化・エネルギーの面的利用・レジリエンス強化やカーボンニュートラル LNG の導入、CCUS 技術の活用
- お客様先のCO₂排出削減貢献：ガス・電力の脱炭素化
ガス体エネルギーの脱炭素化技術開発や再エネ電源の拡大、ガス火力のゼロエミ化
- 自社排出CO₂削減
太陽光発電や、CCU、HEV/FCV/EV等の利用により自社設備、利用ビル、社用車等の脱炭素化を進める

ポイント

- まずは天然ガスを活用した燃料転換・低炭素化を通じてトランジションを推進し、2030年以降に水素や合成メタンを順次導入することでカーボンニュートラルを達成する道筋を描いている。
- 排出量の大半を占めるScope3の削減に資する取組を戦略の柱のひとつ（ガス・電力の脱炭素化）として掲げ、Scope1 & 2についても着実な脱炭素を実施する計画を構築している。
- 2022年3月に発行したトランジションボンドの資金使途と今回の調達における資金使途(以下)により、東京ガスのトランジションへの取組を網羅
 - 2022年3月：“天然ガスによる低炭素化”を中心としたもの
 - 本案件：“ガス・電力の脱炭素化”を中心としたもの

東京ガス株式会社 | 案件概要

科学的根拠のある目標と経路（要素3）

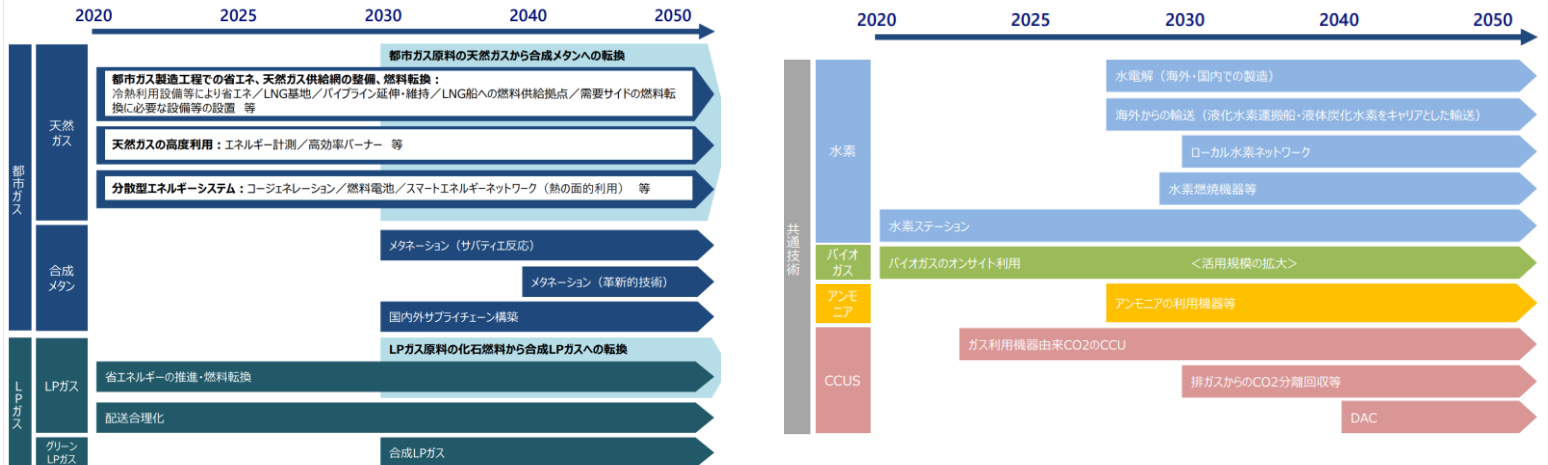
東京ガス
Compass Action
カーボンニュートラルへの移行ロードマップ



ガス分野ロードマップと整合する取組

- 天然ガスに関する取組
- CCUSに関する取組
- 合成メタンに関する取組
- 水素に関する取組
- 合成メタンに関する取組

経産省
ガス分野における
技術ロードマップ



補助金審査委員会 | 結果概要

対象事例：東京ガス株式会社 トランジション・ファイナンス

審査結果：承認

クライメート・イノベーション・ファイナンス推進事業の補助金事例として承認

主なご意見

トランジション戦略

- しっかりとしたトランジション戦略が策定されており、案件として問題ない。
- 前回モデル事業で示されたトランジション戦略に沿った取組を資金使途としており、2022年3月の調達を踏まえ着実に取組が実施されている。全体として素晴らしい。
- 資金使途として挙げられている再エネの一つが海外の取組となっているが、これがどのように自社の2030年、2050年の排出量削減につながるかを今後うまく示せるとさらに良い。

他の要素・その他

- バイオマスの量的・質的調達が困難になっており、長期調達の担保がますます重要になっている。
- メタネーションが資金使途に含まれている点はガス会社の脱炭素化において非常に重要な点である。今後の事業拡大に向けてCO2や水素の調達についても具体的に検討・示されると良い。